

WITH コロナ 学校での学び、学校生活はどう変わるのか？

新潟県の緊急事態宣言が解除された週末、街には少しずつ、人の流れが戻ってきたような気がしました。しかしながら、あらゆる場所で、人と人の距離をとるための目印があったり、入店に際してマスクを必ず着用してくださいという掲示があったりと、新しい生活様式を踏まえた配慮がみられました。

今日にも、残された地域での緊急事態宣言が解除される見通しですが、そうになると、また、経済活動等が活発になってくるでしょう。しかし、そうであっても、以前の生活に戻るのではないことを、私たちは強く自覚する必要があります。

高志中等教育学校でも、6月1日の学校再開に向けての新しいステージが今日から始まりました。

5, 6年生は、コース選択等をもとに、人数の多いグループは、視聴覚室や集会室など大きな教室を使用し、20人程度のグループは、教室で、できうるかぎり、間隔をあげながら、1日学校で過ごしました。

1~4年生は、1, 3年、2, 4年と、午前、午後に分かれ、1教室20人以下になるように倍の教室で、半日授業を受けました。

体育の授業では、かなりの間隔をあけて、軽い運動、ストレッチなど、体をほぐす授業が行われていました。体育館の入り口には、シャボンネットを使っての手洗いを確実にすること、マスクの着用は個人の判断によることなどが、大きく掲示されていました。

学校が再開すると、多くの科目では先に述べたような物理的な距離をとっての授業は難しくなります。しかしながら、様々な配慮や工夫、そして、一人一人の心がけによって、感染のリスクを減らすことはできるはずです。マスクをつけること、手洗いやうがい、話をするときの距離や声の大きさなど、自分にとってだけでなく、相手にとってどのように受け止められるかという想像力を働かせることが必要です。

最近、外出する際に、マスクを忘れるとあわてて取りに帰るのが普通になってきています。マスクをしないで見ると、どうしたのだろうと違和感をもちます。だからといって、マスクをしていない人に対して、一方的に怒鳴りつけるなど、行き過ぎた「自粛警察」のような行為も考えものですし、それが心ない差別や偏見となつてはいけません。一人一人の感じ方や考え方には違いがあります。特別な事情があることもあるでしょう。その違いや事情を勘案し、すりあわせていく正しい方法や手順を忘れてはいけません。

先週の金曜日、新潟大学の阿部ふく子先生と、「哲学対話」のワークショップを当校で実施していただく打ち合わせを ZOOM で行いました。新潟大学では4月からオンライン授業が続いているそうです。本来、車座になって行う「哲学対話」も、ZOOMでも実践されているそうです。慣れている学生ならばできるけれど、初めての中高生には難しいという印象をもちました。当校でも学校が再開された方法を工夫し、ぜひ、やっていただきたいとお願いしたところ、ご快諾をいただきました。方法などは、今後さらに検討しますが、皆さんも

楽しみにしててください。

また、先ほど、新潟大学理学部の方が、ジュニアドクターの取組の説明においでになりました。前期生対象の事業ですが、当校からも昨年度たくさん応募のあったものです。今年度は、このような状況の中で、大学生と同じように ZOOM を利用しての受講体制をとるかもしれないとおっしゃっていました。

新型コロナウイルス感染拡大防止のために、たくさんの自粛要請や規制が行われ、経済活動や学習方法、生活様式に大きな変化が求められています。予防のためのワクチンと確かな治療薬が開発され、世の中に十分な量が出回るようになったときが、終息といえるのですが、それまでには、かなりの時間がかかりそうです。

そして、仮に終息したとしても、それは、元に戻るのではなく、新しい時代が始まるということになります。今の、この変化の中で得たものをより効果的に活用することで、よりよい時代を創り出すということが、今、私たちに求められています。

在宅学習で、みなさんは、ICT を活用した個別最適化学習のリテラシーを身に付けることができましたか？ 自分で内容や時間、方法を工夫して効果をあげる自己調整学習の力を高めることができたでしょうか？ 外出制限や仲間と会うことができないという窮屈な生活の中にあっても、自分の心身の健康や生活のリズムを的確に保ち、健康的で充実した価値ある日々を送ることができたでしょうか？ この休校中に、成長した自分を実感できたでしょうか？

さて、先にお話した人文学部の阿部先生との打ち合わせの最後に、一緒に参加していた大学院生の方から、こんな話がありました。「ZOOM などオンラインでの対話は、実際のものとはずいぶん違う。ICT を活用すれば、代替できるというものではない。」と1か月の ZOOM による授業の感想、哲学対話を ZOOM で行った感想を話してくれました。

世の中では、コロナ対応で、テレワークを行ったら、それで十分仕事ができることに気がついた、これからもずっとそれでいいという企業が出てきていると報道されています。オフィスがいなくなるので、解約まで、他の企業に貸すことで経費を浮かせるという企業もあります。在宅だと食後の昼寝の時間がとれる、自分のペースで仕事できていいという声がある一方で、つつい集中して仕事をやり過ぎてしまうという人もいます。テレワークや在宅勤務がいいとか、悪いとかひとくくりに判断するのではなく、では、その状況の中で、どうすることがよりよい働き方、学習の仕方、生活の仕方につながるのかということ自分で判断することが必要なのです。

みなさんが生きる時代、例えば、総務省がかかげる Society5.0 の社会は、コロナ対応によって変化しているデジタル社会の延長線上にあります。ICT の利用、動画による発表・発信が日常化する世界、遠隔の人たちとともに、オンラインで会議をしたり、共同制作したりすることが日常化する時代です。そのときに、必要となる資質・能力とはどんなものでしょうか？

来週から学校が再開されます。「再開」といいましたが、それは、新しい学校生活のスタ

ートです。以前に戻るのではありません。

「新しい生活様式」を踏まえたコロナ感染拡大予防への配慮と、学校に集い共に学ぶというかけがえのない対話と協働の時間、さらには、ICTを活用した自己調整学習を一層確かなものにするための学びのときでもあります。

どんな状況の中であっても、よりよい学びを深めていくことはできます。これまで以上の心遣いと創意工夫、挑戦の気持ちをもって、一日一日の学校生活を送ってほしいと思います。新しい学校生活は、みなさん一人一人が創出していくのです。